

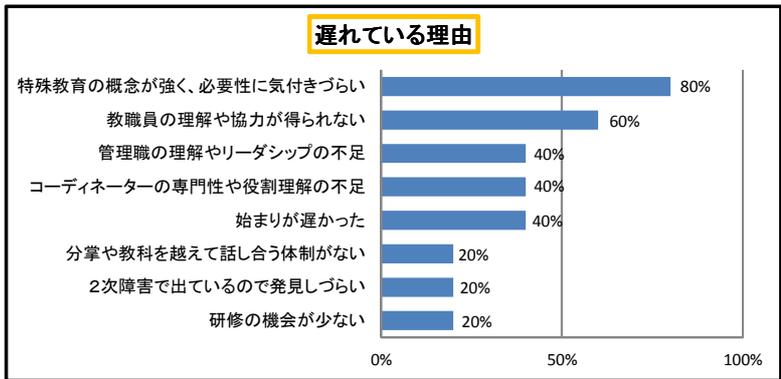
資料1-① 特別支援学校コーディネーターへの聞き取り結果

(結果の考察は、報告書P3「IV 研究の内容 2 聞き取りの結果と考察」に記載)

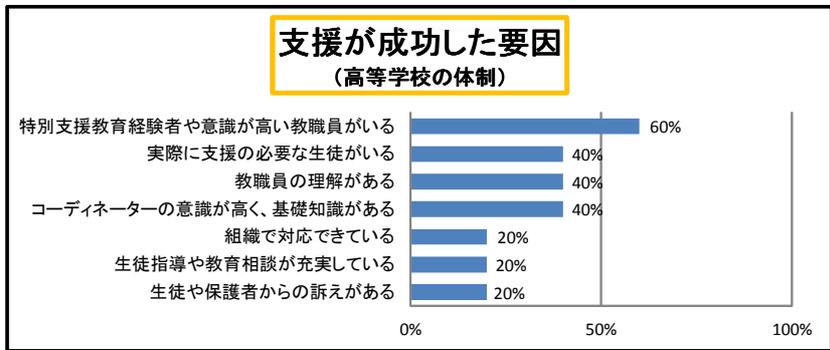
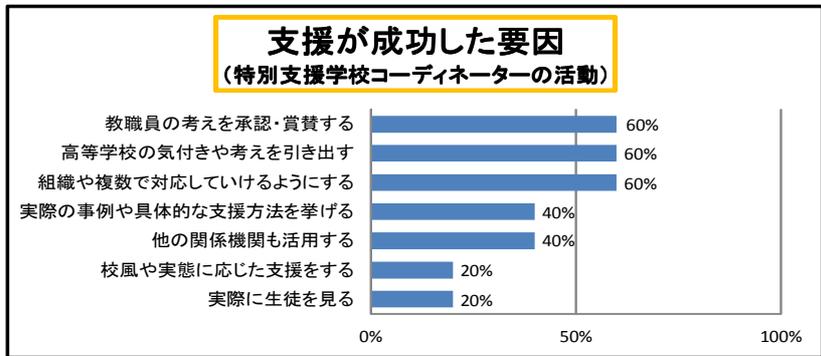
1 高等学校における特別支援教育の体制整備や具体的支援について

遅れがあると思いますか？

**遅れがある…100%**  
(格差がある)

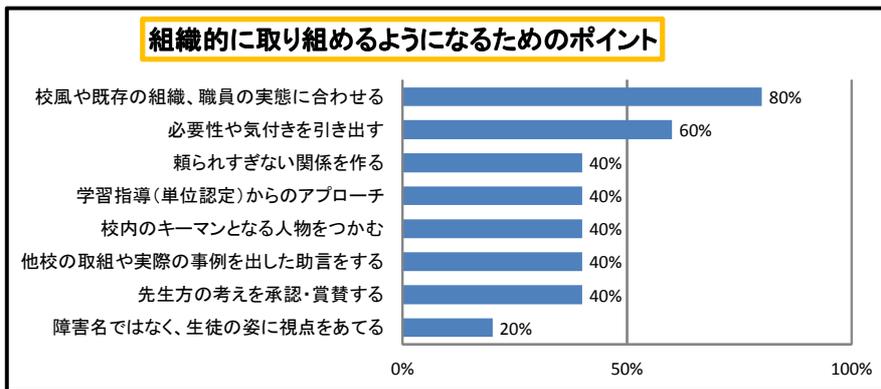


2 高等学校への支援について

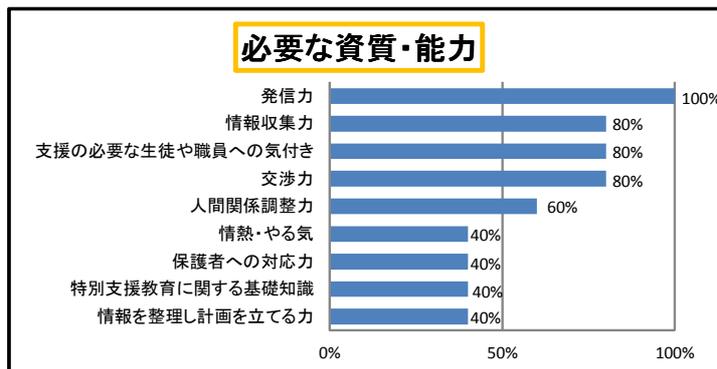


支援がうまくいかなかった例

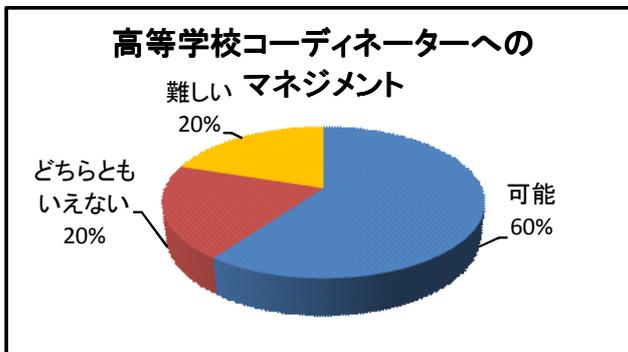
- ・ コーディネーターや担任のみとやりとりをしていて、学校の状況や他の教職員の考え、生徒の実態とずれてしまっていた。
- ・ 担任やコーディネーターが一人で抱え込み、頑張ってしまった。
- ・ 発達障害の理解について説明や研修をしていたが、教職員のニーズは具体的な事例や具体的な支援方法にあった。
- ・ 教職員の理解や協力が得られなかった。
- ・ 保護者の理解や協力が得られなかった。
- ・ 2次障害がひどくなり、医療との連携が難しく、支援できなくなってしまった。
- ・ 入試の関係で、中学校からの情報収集がうまくいかなかった。



### 3 高等学校コーディネーターについて



### 4 特別支援学校コーディネーターが行う高等学校コーディネーターへのマネジメント



#### 可能と考える理由

- ・ 現実的・具体的な方策が提案でき、学校同士で連携が図れる特別支援学校だからこそ、マネジメントができる。(カウンセラーや専門家チームでは難しいであろう)
- ・ 組織マネジメントは管理職が行うものだが、コーディネーターがうまくいくようにするマネジメントは可能だと思う。コーディネーターにいかにか情報が集まるか、その上で管理職との連携が大切。管理職から下に降りるとまた組織的に進められる。
- ・ 特別支援教育の専門性だけでなく、高等学校の実態や大変さを理解した上で支援をしていくのであれば可能。

#### どちらともいえない理由

- ・ 特別支援学校コーディネーターが、高等学校の勤務経験があったり高等学校での支援の事例をたくさんもっていれば可能だと思うが、高校での経験値が少ないコーディネーターでは難しいと思う。

#### 難しいと考える理由

- ・ マネジメントという大きなことではなく、特別支援学校コーディネーターは、先生方の気付きを引き出した、考えを認めたり、ヒントを与えたりという役割であると思う。

## 資料1-② 高等学校コーディネーターへの聞き取り結果

(結果の考察は、報告書「IV 研究の内容 2 聞き取りの結果と考察」に記載)

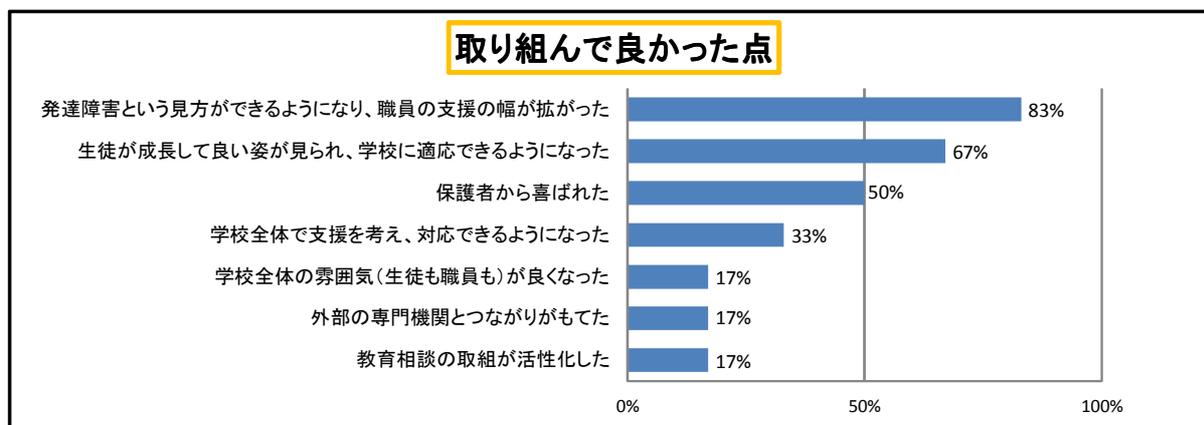
### 1 自校における特別支援教育で目指すもの・目指す姿

- ・個々のニーズに応じた対応をし、困っている生徒を適切な進路に結びつける
- ・特別な配慮が必要な子に、個々に応じた必要な支援をする
- ・障害の有無に関係なく、支援の必要な生徒に、誰でも当たり前のように支援できる
- ・気になる子に、個々に応じた必要な支援をする
- ・困っている生徒、支援を必要としている生徒全員を対象に、職員が情報を共有しながら、きめ細かい支援・指導を行う教育（発達障害であるかどうかでなく、発達障害の生徒を探すわけでもなく）
- ・すべての生徒にとって「居心地の良い」学校作り

### 2 特別支援教育が進んでいった手順

- ・校内研修 → 生徒の情報収集 → ケース会議の実施と全職員への情報発信
- ・校内研修 → 生徒の情報収集と全職員への情報発信 → コーディネーターと担任が中心となった支援の話合い
- ・校内研修 → 生徒の情報収集と全職員への情報発信 → 支援チームによるケース会議
- ・校内研修 → ケース会議 → 生徒の情報収集と全職員への情報発信
- ・コーディネーターと担任が中心となった支援の話合い → 校内研修 → 生徒の情報収集 → 特別支援教育係による支援策の検討 → 全職員への情報発信
- ・組織と支援のシステム作り → 全職員による特別支援教育についての支援方法の検討と校内研修 → 生徒・保護者向けセミナーの開催

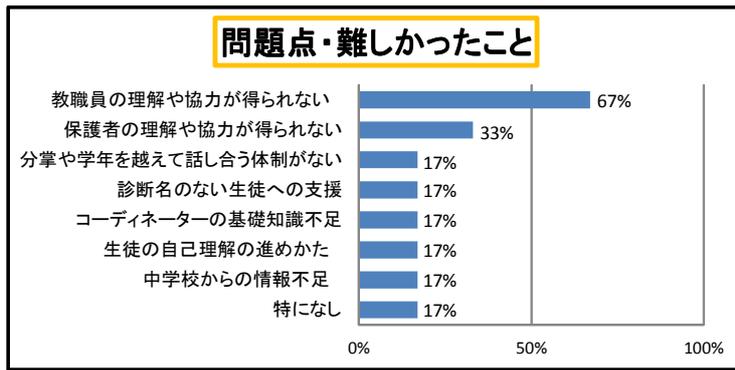
### 3 特別支援教育に取り組んで良かった点



### 4 特別支援教育が学校へ浸透するために努力したこと

- ・教職員が相談しやすい雰囲気を作った。
- ・教職員全体へ生徒や特別支援教育に対する情報発信を行った。
- ・校内の体制を整え、組織や複数で取り組んだ。
- ・校内のキーマンとなる人物（生徒指導主事、学年主任、教育相談係、教務主任等）とコミュニケーションを取った。
- ・生徒の情報収集に努めた。
- ・支援が必要と思われる生徒の関係者へ情報発信をした。
- ・支援が必要な生徒が所属する学年や担任の意向をよく聞き、受け入れるようにした
- ・校内研修を実施し、基礎的な知識をもてるようにした
- ・スクールカウンセラーを活用した

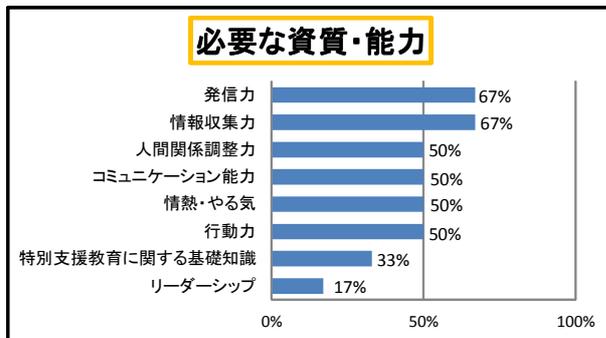
## 5 進めていく上での問題点と解決方法



### 解決方法

- ・校内のキーマンに働きかけ、情報発信や協力をしてもらった。
- ・教職員の意向を大切にし、コミュニケーションを取るようにした。
- ・管理職がリーダーシップを取って組織体制を作ってくれた。
- ・管理職がフォローや代弁をしてくれた。
- ・研修を減らし、実際のケース会議に切り替えた。
- ・特別支援学校コーディネーターに支援に入ってもらった。
- ・特別支援教育について勉強し、専門性を高めた。
- ・教職員へ粘り強くアプローチした。

## 6 コーディネーターに必要な資質や能力



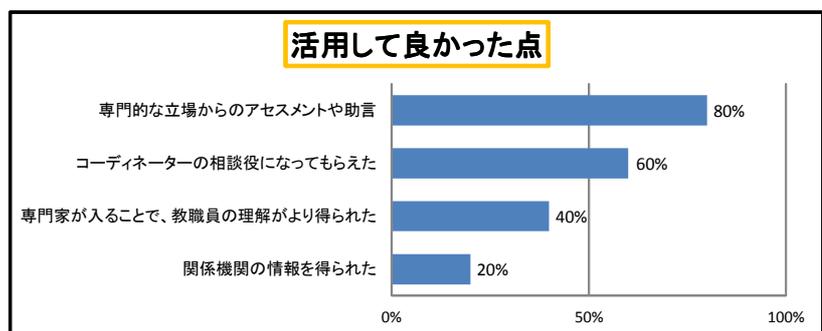
## 7 今後取り組んでいきたいこと

- ・進路支援（インターンシップ含む）
- ・卒後支援
- ・全体を対象とした特別支援教育
- ・障害の有無にとられない、一人一人に応じた支援

## 8 特別支援学校コーディネーターについて

活用したことがありますか

**ある… 83%**



### 課題

- ・特別支援学校のシステムを高等学校に取り入れるには、教職員や保護者にきちんと説明し、段階を踏んでいかなければならないが、特別支援学校コーディネーターの支援が性急に感じてしまうことがあった
- ・高等学校のシステムに合わせたアドバイスがほしい
- ・人が変わることがあり、支援の継続が難しく、初めから説明しなければならない
- ・特別支援学校から定期的に声をかけてくれるとありがたい